

## 夏の熱気ビーチに再び

渋川海水浴場 シーズン後の利用PR



力を合わせて元力士に挑む子どもら（玉野市の渋川海水浴場で）

海水浴シーズンが終わっても多くの人にきれいな砂浜を利用してもらうと、玉野市やNPO法人日本ビーチ文化振興協会（東京都）などは5日、同市渋川の渋川海水浴場で「第2回ビーチライフィン渋川」を開いた。子どもらは浜辺を使った相撲やサッカーなどを楽しんだ。

ビーチ相撲には、元幕内力士の玉海力剛さん（43）ら2人が浜辺に作った土俵で子どもたちの挑戦を受け

た。玉海力さんにぶつかった岡山市立西小2年の藤木健斗君（8）は「大きくて強かった。何度も投げられたけど砂浜だから痛くなかった」と笑顔で話した。ほかにも砂浜に立てた旗を奪い合うビーチフラッグスやビーチサッカーなども行われた。

この日、玉野市の最高気温は32度と、真夏日を記録。会場には、かき氷や焼きトウモロコシなどの露店が並び、夏のにぎわいが戻って

きたかのよう。

一方、主催者側は憩いの場でもある美しい海岸を守ってほしいと、お茶などを飲み終えたペットボトルのキャップを集め、ベンチに加工する「エコキャップ運動」への参加を呼びかけた。集まった人たちは自分で飲んだボトルやキャップの回収に協力していた。